

2024 年度 第 1 回 南の星小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 2024 年 5 月 13 日（月）14 時 30 分～16 時 10 分まで
- 2 開催場所 南の星小学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木美佐男、小林睦夫、原川 翼、井口裕士、佐藤政美、
大石わかな、BAMBANG HARIANTO、HASHIMOTO IZABELA
- 4 欠席委員 澤井友美、鈴木アリネ、
- 5 オブザーバー 中村優作（五島協働センター所長）
- 6 学校 竹村元清（校長）、古橋水無（教頭）、川本仁美（CS 担当教職員）、
井上美和（CS ディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議記録作成者 CS ディレクター 井上美和
- 9 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、佐藤委員から今年度小林委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
 - （1）学校運営の基本方針について
 - （2）いじめ防止基本方針について
 - （3）夢育やらまいか事業について
 - （4）令和 6 年度学校運営協議会自己評価について
- 11 会議記録
司会の教頭から、委員総数 10 人のうち 8 人の出席があり、過半数に達している為、会議が成立している旨の報告があった。
 - （1）学校運営の基本方針について
議長の指示により、校長から資料に基づき学校運営基本方針について説明があった。
 - （2）いじめ防止基本方針について
校長より、別紙資料に基づき、いじめ防止基本方針について説明があった。
 - （3）夢育やらまいか事業について
教頭より、別紙資料に基づき、夢育やらまいか事業について説明があった。
 - （4）令和 6 年度学校運営協議会自己評価について
原川会長より、別紙資料に基づき、今年度における学校運営協議会の目標について説明があった。
 - ・具体的にはどんなことをやっていきたいと考えているか。（小林委員）

- ・挨拶運動を地域の方を巻き込んで行いたい。民生委員の方々とも一緒にやっていけたらいいと思う。今年１年で進めていけたらと考えている。（原川委員）
- ・ＰＴＡが行っていた旗振り６月からなくなる。民生委員の方から１年生の下校指導を手伝いたいとの申し出があった。今後、下校指導として旗振りを一緒に行っていけたらと考えている。（小林委員）

委員からは以下の発言があった。

- ・コロナが明けてボール遊びなどが増えてから怪我が増えた。怪我をしないようなボールに変えるのではなくて、そのままのもので危険回避をお願いしたい。（小林委員）
 - ・ボール遊びだけでなく、木登りや水泳など危険だからやらないとなると、何もできなくなってしまう。危ないから止めてしまうのではなく、危険な状況になった場合対処できる環境作りが大切。何でもやらせてみる、多少の痛さを知ること子どもを育てることに繋がる。（鈴木美佐男委員）
 - ・外国籍の方も子どもと親と一緒に居る、地域に溶け込んでもらうことが必要。地域も理解していくことがないとどのようなことも進めていけない。（鈴木美佐男委員）
 - ・学校と地域の関わり方、コロナ前後で違ってきている。運動会、入学式、卒業式など、地域の人たちの参加がなくなった。地域と学校の関わりが遠のいていると感じる。地域としてもどこまで学校に入っていっていったらいいのかが分からない。地域と学校との結びつきがより現実的なものであるといいと、感じている。（鈴木美佐男委員）
 - ・いじめの判断基準も今と昔とは異なっている。最近は嫌と相手を感じたらいじめと判断されてしまう。注意も口頭のみで叩くようなことはしない。昔の人間からしたら、当たり前なのがいじめと判断されがちなのではと感じる。注意や指導も今は難しいと感じる。しつけの範囲であれば、叩くことも必要なことなのではないか。（鈴木美佐男委員）
 - ・ＰＴＡも共働きで学校の仕事を親ができない為に、役員のなり手がいない現状がある。また役員をやりたくない為に、隣の学区の学校に行くといった親もいる。学校と父兄の関係も昔と今では異なっている。旗振りも本当に止めてしまっているのか、疑問が残る。資源物回収も親子でやれなくなりやめてしまう。地域との関わりもいろんなことが疎遠になっていくのかなと、感じている。（鈴木美佐男委員）
 - ・学校と親との関係をもっと密にしていけることが必要。学校に子どもを任せるばかりではなく、親ももっと学校と関わっていくべき。例えばお父さん達の会のような集まりを作るなど、もっと学校とコミュニケーションがとれる機会を持てれば、子どもが、先生にきついことを言われた、いじめられたと言ってきたことがあったとしても、学校側の思いや考えに気付くことに繋がると思う。（バンバン委員）
 - ・学校は何の為にあるのか？はっきりしないといけない。
- 子どもが学校で問題を起こしてしまうのは、学校ではなく親のしつけの問題。

先生は勉強を教える人であり、子どもの問題行動は親の役割。

なんでも学校が責任を負うというのはおかしいと思う。(ハシモト委員)

・自分の1年生の娘は、同じ学年の言葉の分からない子の通訳をすることがある。その子と関わる中で、相手がいじめられたと感じることがあるのではないかとすると、心配。(ハシモト委員)

・自分の子どもも、友達から陰でこそこそ言われたことがきっかけで、4年で学校を休みがちになったが、5年では登校できるようになった。先生が話せる人をそばに置いてくれたりと、学校に行きやすい環境を整えてくれて、とてもありがたかった。何かあればその都度先生と話し合いを行い解決していることもあり、大きいいじめにはならなかった。先生の対応には感謝している。(佐藤委員)

・学校と地域との関わりが、今は昔と比べて希薄になっている。このような状況からこの学校運営協議会が始まっていると思う。(井口委員)

・資源物回収もなくなってしまうと、ますますコミュニティーの場がなくなってしまう、孤立してしまう人がでてしまうのではないかと。学校との接点がなくなってしまうのではないかと。どこかでコミュニティーの場を作っていく必要がある。

・いじめはある程度はあってもいい。どのように立ち回っていくのかを子供たちが学んでいく場であるとも言えるのではないかと。周囲はひどくならないように環境調整を行いながら、子どもが学ぶ場を提供していくことが必要。(井口委員)

・キャリアフィアルは1年間の目標を立てて振り返るだけでなく、それに対して何をどうしたか具体的なことを書き加えて欲しい。(井口委員)

・今回ここに参加したことで、この学校運営協議会のことを知った。自分の周りにも知っている人はいない。今回知ることができてよかった。(大石委員)

・地域と学校、保護者とのコミュニケーションをより深めるために、現実的手段で何かをやった方がいいと思う。今年1年でできなくても、今度も足掛かりになるといいなと思う。(大石委員)

・自分自身も2児の父であるので、興味深く話を聞かせていただいた。協働センターでは、職員は子どもに声かけを行っている。夏休みも講座を実施している。学校、家庭、それ以外の居場所として、地域との関わりを得られる場所となればと思っている。(五島協働センター中村様)

・今後は民生委員代表の方とお会いして、日程を決めて下校指導についてお話を伺えればと考えている。次回の協議会で報告できればと検討している。(原川委員)

・自治会から、旗振りの方に着てもらうようにとベストを配ったことがある。どこかにあるはずなので、ベストを着て安全パトロールの意識も持って、旗振りを行ってほしいと思う。(鈴木美佐男委員)

・PTAが学校も地域も近い活動を減らしてしまうことは、とても残念。自分の子どもの為に時間を作って活動することがどうしてできないのか。(原川委員)

・何らかの形で学校に集まる機会を作るとは、学校、地域との繋がり作りになり、いいことだと思う。花壇の整備など、身近で簡単なことからでいいのではないか。（鈴木美佐男委員）

（３）連絡事項

・令和６年度第２回学校運営協議会 予告

司会より、次回会議は令和６年７月２３日（火）１４時３０分～１６時、南の星小学校２階研修室で開催する旨の報告があった。